

## 2020春闘妥結にあたっての見解

J R東労組バス東北本部は、2月28日に申6号「2020年度賃金引上げ等に関する申し入れ」を行い、①J R春闘を職場から担うべく基本給一律6,000円を引き上げること（定期昇給を含まない）、②北東北の契約社員の基本日額を60円引き上げ、さらに仙台圏の契約社員と同等にした上で基本日額を一律300円引き上げること③人材流出に歯止めをかけ、要員を確保していくために60歳未満の契約社員の希望者全員の社員化及び定期昇給の実施という大きく3つの要点に的を絞り、組合員・家族と多くのJ R東労組の仲間からの檄を受けながら粘り強く交渉を重ね、精力的に議論を展開してきた。今春闘は分裂策動による20春闘破壊が行われ、J R東労組の組織力は多大なる影響を受けるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響によって春闘相場を牽引する企業においてもベアゼロ回答を示すなど厳しい状況のなかでのたたかいとなった。

バス東北会社は、第2四半期決算については主力の高速乗合・貸切部門の減収、人件費・減価償却費等の増加に伴い、営業収益は2019年度収支計画を大きく下回る結果となり、続く第3四半期決算で昨年の10月に発生した台風19号被害によるJ R八戸線等の列車代行、J R西日本バスへの出向などにより持ち直しの兆しを見せてきたものの、年度末を目前に新型コロナウイルス感染症拡大の影響でインバウンドや旅行者の激減により、本年度も非常に厳しい経営状況に変わりがないと主張し、会社施策に協力してきた組合員の努力は認めつつも厳しい回答に終始した。

バス東北本部は、会社経営の苦しい時こそ労使で協力していくことが必要であり、組合員の労働力価値に正當に投資をすること、3年連続ベアゼロであれば、物価上昇分、消費税増税などで生活が苦しくなる一方であることを強く訴えるとともに、組合員から改善を求める声の多い55歳以降の定期昇給の実施や、北東北、南東北の契約社員の格差是正を求めてきたが、現状を突破することが出来なかった。これ以上交渉を先延ばしにすることは、過去の交渉経過と組織現実を踏まえても非常に厳しくなるという懸念があったため、3月30日に苦渋の判断ではあったが定期昇給の実施を確認し席上妥結した。しかしその一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う路線休止・減便を含め、今後の会社経営に不安を抱えている組合員も多くいることについて、主に白沢・七北田事業所の社員を対象に高速訓練の実施及び中途採用者の訓練等を実施するなど、新型コロナウイルス感染症の終息後を見据え、厳しい情勢でも社員の雇用を守ることを併せて確認した。

今20春闘は、組織的にも社会的にも前例のない厳しい状況の中、全分会・全組合員が精力的に檄布・檄紙行動に取り組み、職場からたたかいをつくり出してきた。一方、全分会で春闘集会を開催することが出来なかったことについては21春闘に向けての課題であるが、バス東北本部にとって最大の課題は、春闘の3要素の一つでもある「組織力」の強化である。職場では転勤問題や60歳以降の雇用形態などの問題が山積しているが、今後も、20春闘の教訓と課題を明確にした上で、職場問題解決に向けた議論を職場集会等で高め、職場実態に応じた運動を全組合員でつくり出すことで組織力の強化へ繋げていく。また同時に、会社の経営状況を単に批判するだけではなく、労働組合として会社の将来を見据えた建設的な提起もしていかなければならない。

バス東北本部はこれからも「新生J R東労組運動宣言」のもとJ R東労組とバス東北会社、そして組合員とその家族の未来を守り抜くために活発な議論を展開していくことを明らかにし、見解とする。

2020年4月8日  
東日本旅客鉄道労働組合  
ジェイアールバス東北本部